

鳥獣被害防止総合対策の概要

目標の設定及び対策の概要

目標設定

○被害額減少目標（H23目標(H21実績)）
被害額 500百万円以下（721百万円）

○捕獲頭数目標（H23目標(H21実績)）
イノシシ 15,000 頭（11,071 頭）
シカ 2,900 頭（2,198 頭）
サル 300 頭（201 頭）

鳥獣被害防止総合対策

捕獲対策

捕獲の担
い手確保
・育成

緊急的な
捕獲の強
化

捕獲鳥獣
の食肉利
用

新たな捕
獲の担
い手確保

イノシシ
対策

埋却処理
食肉利用

捕獲の担
い手育成

シカ対策

サル対策

防護対策

地域ぐる
み型被害
防止活動
の普及・
定着

野生鳥獣生息環境改善
・緩衝帯整備促進
・多様で健全な森林づ
くりの推進

クマ対策

クマ保護管理対策

予算額の推移

※ () は直接事業

H22 : 202,938 千円
(84,438 千円)

H23 : 455,272 千円
(303,862 千円)

関連予算の概要

捕獲対策

◆ 捕獲の担い手確保・育成

25,395千円

自衛隊OBや農協職員等の狩猟免許取得等を支援するとともに、捕獲技術向上のための研修会等を実施することにより、捕獲の担い手を確保・育成

区分	取組内容	備考
新たな捕獲の担い手確保	・自衛隊OBや農協職員等の狩猟免許新規取得経費の支援（別添資料参照） ・狩猟免許の受験機会を年3回から5回に拡大	県から申請者に直接交付
捕獲の担い手育成	（銃猟捕獲隊員の育成） ・狩猟免許新規取得者に対し、射撃訓練、実地訓練等の研修を実施 ・捕獲活動に永年貢献してきた者をマイスターに認定 ・事故防止と技能向上のため、狩猟期前に義務付けられている射撃練習経費を助成 ・銃器によるシカ捕獲技術実地研修の実施（わな猟捕獲者の育成） ・わな猟免許新規取得者等に対し、捕獲技術の向上のための技術研修を実施	猟友会補助 県実施 猟友会補助 猟友会委託 県実施

◆ 緊急的な捕獲の強化

50,638千円

鳥獣による農林業被害や人的被害への緊急対策として、市町や猟友会等と連携し、徹底的な捕獲を実施

区分	取組内容	備考
イノシシ対策	・イノシシの徹底捕獲（別添資料参照） ・狩猟期間の延長（現行11/1～3/15⇒延長後11/1～3/31） ・農業者の「自衛わな」に係る規制緩和	県実施
シカ対策	・広域捕獲隊による市境を越えた一斉捕獲を実施 ・新型囲いわなシステムによる捕獲を導入 ・冬場の捕獲強化のため、狩猟による捕獲を地元猟友会へ委託実施 ・狩猟期間の延長（現行11/1～3/15⇒延長後11/1～3/31） ・農林地からシカを排除するためのシカ捕獲システムの開発 ・シカの生息分布、生息密度等の実態調査	猟友会委託 県実施 猟友会委託 県実施 県実施
サル対策	・捕獲のノウハウを有する広域捕獲班を編成し各市町の要請に応じ派遣 ・箱わなによるサル捕獲技術の普及促進	猟友会委託 市町協議会委託

◆ 捕獲鳥獣の食肉利用

4,000千円

イノシシの肥育技術、料理などの食肉利用に向けた研究

防護対策

◆ 地域ぐるみ型被害防止活動の普及・定着

219,329千円

被害の発生要因等実態把握のための集落環境調査や地域リーダーの育成など、地域の被害防止活動を支援

区分	取組内容
集落環境調査の実施	・被害の深刻な地域を対象に、発生要因などの実態調査（農業共済委託）
リーダーの育成	・地域の被害防止活動の核となる地域リーダーの育成（県実施）

国の交付金を活用し、市町の被害防止活動や防護柵整備等の取組を推進

区分	取組内容
ソフト対策	・地域ぐるみの被害防止活動（モンキードッグ、捕獲機材等の購入） ・先進的な被害防止対策の実施（誘導捕獲柵、緩衝帯整備等）
ハード対策	・侵入防止柵等整備（金網フェンス、電気柵等）

◆ 野生鳥獣の生息環境の改善

151,410千円

緩衝帯整備や森林づくりによる野生鳥獣の生息環境の改善を実施

区分	取組内容
緩衝帯整備	・山口型放牧による緩衝帯の整備 ・鳥獣被害が発生している集落・農地周辺の繁茂竹林伐採
健全な森林づくり	・クマが生息する奥山の荒廃森林の針広混交林化 ・クヌギ、シイ、カシなどドングリのなる広葉樹の植栽

クマ対策

◆ ツキノワグマ保護管理対策

4,500千円

地域住民の安心・安全の確保を最優先に、絶滅危惧種であるツキノワグマの適切な保護管理を実施

区分	取組内容
被害防止対策	・クマ出没時の見回りやクマ捕獲時の周辺住民の安全確保等 ・美祢市での生息状況調査の実施
保護管理計画の策定	・広島県、島根県と連携し、新たな保護管理計画を策定